

2枚の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードもしくはフオカードをプレゼントします。

秘書広報課 ☎66♦1145

応募方法

ハガキまたはファクスに①答え(左の絵に○をつける)②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、⑦意見などを書いて秘書広報課(〒443-8601 FAX 66♦1190)へ。なお、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

とうふねこ座：市川雅子 画

応募締切

6月15日(月)



吉良の仁吉茶屋(栄町)

むかし、平坂街道から分かれて東へ向かって行く海際の道を、鎌倉街道と呼んでおった。国道23号線の南側を通り、犬飼公会堂(塩津)のすぐ南を通り、国道の北へあがる。落合川を渡り、また南へ下り厚生館病院の北側の道を通って静岡方面へ向かう道だった。

おいらは松。鎌倉街道を行き交う旅人たちを50年間見てきた。おいら達6本の松は落合川にかかる板橋の西の川洲に生えている。

おいらの向かいに茶屋がある。赤い布を敷いた縁台に、水戸黄門の八つあきが団子をあわてて食べてのど詰まらせて、お茶飲んでほっとしているような茶屋だ。軒先に草履がつるしてある。

足早に西へ向かう若侍。伊勢参りへ行く初老の夫婦が、茶屋の縁台に座って一杯のお茶で疲れを癒す。

重い荷物を担いだ行商のおじさんはいつもここでひと休みし、おいらを見上げながら団子2本食べていく。

あ、向こうからちようちん下げた人が来たぞ。仁吉さんだ。茶屋に着くと静かに縁台に座り、ちようちんとかぶっていた三度笠を置いた。茶屋のおばあちゃんひとひと言ふた話をしておいしそくに団子を食べている。おいらの枝かきりをまじしと見ている。ちよつと照れちゃうよー!

いつの間にか近所の子どもらがわらわら集まってきた。おいらのとなりの松に登る。となりの松は川に覆いかぶさるようになっている。その幹から次々に川へシャーンプ! (昔の落合川は深かったのだ)

仁吉さんはニコニコ笑いながら、川の予らに三度笠を持った手を振りながら出発していった。清水の次郎長を尋ねていくんだろーな!

茶屋のおばあちゃんが何か慌てている!

どーしたの? おばあちゃん…え?

えー! ちようちん忘れてっちゃった!

吉良の仁吉さん!

というわけで落合川の茶屋を、吉良の仁吉茶屋と呼ぶようになったのだ。吉良の仁吉は幕末末期に活躍した侠客だ。清水の次郎長のもとで3年間過ごし、兄弟の盆を交わした。その後西尾で吉良一家を興したが、28歳の時荒神山のけんかで亡くなった。今はおいら達6本の50年松は伐採されてもついでない。

【参考資料】蒲郡風土記 著…伊藤天章

◆4月号の答え

